

# 組織をあげて 会員増強運動を展開しよう

## —今後2年間の取り組み重点



### 会員増市区町村老連の状況（提出 215 老連）

#### 1 会員増加数 8,568 人 (2% 増)

クラブ数の増減 86 クラブ増 (平均 0.4 クラブ増)  
 ○クラブ数の増 156 (新設 105、復活 51) …平均 0.7 クラブ増  
 ○クラブ数の減 61 (休会 28、解散 33) …平均 0.3 クラブ減  
 ※内訳未記入があるため合計とは合わない

#### 2 会員増強に係わる体制（重複回答）

体制あり 109 老連 (51%)  
 ○部会・委員会 69 老連 (32%)  
 ○担当者 47 老連 (22%)

#### 3 「会員増加のポイント」および「効果をあげた取り組み」（重複回答）

(昨年比)

- |                   |             |   |
|-------------------|-------------|---|
| ①声かけ、戸別訪問         | 59 老連 (27%) | → |
| ②クラブ新設、解散防止       | 49 老連 (23%) | ↑ |
| ③他機関との連携（自治会等）    | 33 老連 (15%) | ↑ |
| ④活動による勧誘、新行事の実施   | 32 老連 (15%) | ↓ |
| ⑤組織内推進（実績公表や意識づけ） | 23 老連 (11%) | 新 |
| ⑥広報・PR活動          | 17 老連 (8%)  | ↓ |

新規会員の割合（提出 32 县老連）  
 ●年齢別 高年会員 39%、若手会員 61%  
 ●男女別 男性会員 43%、女性会員 57%

一方、市区町村段階では会員増を果たしたところが27年度は334老連(19%)あり、1年目より36老連(3%)増えました。その具体的な状況を上記の枠内で報告します。中でも「会員増加のポイント」で、「クラブ新設、解散防止」とそれに関連した「他機関との連携（自治会等）」が昨年から順位をあげて重要視されていること、「組織内推進（実績公表や意識づけ）」が新たに5番目に入ったことが、市区町村老連の運動に対する意識の変化と受け取れます。

この運動の推進は、当初全老連政策委員会においてまとめた要綱案を、ブロックを通して連絡し、全国会議、役員会において検討して決定したものです。昨年度は運動3年目の中間年にあたることから、当時の政策委員・幹事にお集まりいただき、運動を振り返り、今後の対応を協議する検討会を開催しました。その協議内容や全国会議での検討をふまえて、今後の運動の取り組み重点として、次の

4点にまとめました。

- 1 市区町村老連との協議の場づくり
- 2 新規クラブの立ち上げ
- 3 解散クラブの防止
- 4 単位クラブは純増をめざす

それぞれのポイントについて、昨年12月に開催した都道府県・指定都市老連会長会議において事例発表いただいた、石川県小松市老連、兵庫県芦屋市老連の事例も紹介しながらお伝えします。

## 1 市区町村老連との協議の場づくり

新たに提案する取り組み項目です。

検討会での意見交換では、市区町村老連のリーダーおよび事務局の会員増強への関心や意識の違いが運動成果にも影響しているとの指摘があり、従来の大会や研修会、会議等での周知のみでは十分に運動が浸透していないことが報告されました。

この状況を鑑み、まずは都道府県・指定都市老連の役職員が市区町村老連に出でていく予定です。

## 3 解散クラブの防止

会員減少の最大の要因は、クラブの解散にあります。市区町村老連においてクラブの相談機能をもつこと、後継リーダーの発掘をするなどクラブへの支援策を強化して、解散の防止に努めることが必要とされています。

### 〈単位クラブを支援する組織の設置 ～兵庫県芦屋市老連の事例～〉

26年度に新たに企画活性化委員会を設置しました。委員は役職にとらわれず、実働部隊として動ける11名。

目的は、時代に即応できる団体に改革活性化すること、疲弊している単位クラブを支援することの二つです。アンケートでクラブの実状を把握

向いて、現場の状況を把握するとともに、運動の具体的方策等について地元老人クラブ関係者（正副会長、事務局等）と十分に協議する場をつくり、実効性のある運動の推進に努めようというものです。

組織をあげて運動に取り組みましょう。

## 2 新規クラブの立ち上げ

会員増を果たした市区町村老連の多くは、「新規クラブ」の立ち上げに取り組んでいます。近隣クラブや自治会の協力を得ながら、クラブ未設置の地域へクラブ新設を積極的にすすめ、会員増強に結びつく運動展開に努めようというもので

す。

### 〈新設クラブ設置に取り組む ～石川県小松市老連の事例～〉

27年度に8クラブ（新設2、分割・復活6）増やしました。新設2クラブはいずれも75歳までの若手会員が中心になっていますので、これから若手会員向けの活動を開拓することを期待しています。一つのクラブは

握して、クラブ役員との個別ヒアリングを補助金申請とあわせて行いました。クラブのよろず相談や支援、育成指導と共に、クラブの新設・復活にも取り組むこととしています。

## 4 単位クラブは純増をめざす

老人クラブは会員の自然減が避けられない組織であることから、現状の会員数を維持できるように高年、若手、男性、女性会員のそれぞれが同世代や同性への勧誘意識を高め、クラブ全体で会員の純増に努めることが必要です。

若手委員会等による若手・高齢者への呼びかけや、女性委員会での会員増強への取り組みは、まだ十分に機能していない点も会議等で指摘されています。会員それぞれが勧誘意識を高めて運動に取り組むことが重要であると考えます。

◆◆◆

これらの取り組みをふまえて、まずは運動開始時の会員数の回復に努める一方、運動の一層の浸透を図り、会員増加

